

2019年室内環境学会学術大会 優秀ポスター賞 受賞の言葉

P-34 SD法によるアロマ精油の香りに対する  
印象評価に関する研究

崔ナレ<sup>1)</sup>, 山中俊夫<sup>1)</sup>, 竹村明久<sup>2)</sup>, 小林知広<sup>1)</sup>, 衛藤文<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>大阪大学, <sup>2)</sup>摂南大学

このたび、室内環境学会2019年沖縄大会で発表致しました“SD法によるアロマ精油の香りに対する印象評価に関する研究”にて優秀ポスター賞を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。

本研究では、生理・心理的効果が期待され、近年使用が増加している精油の香りに着目し、SD法を用いた評価について検討致しました。香りはホテルロビーやラウンジ、商業空間には既によく導入されておりますが、まだその基準や評価方法は確立されておられません。

精油の香りは好きと感じる人にとっては良い香りですが、嫌いな人には不快なおいになります。そのため、殆どの人々が不快と感じる悪臭の研究とは異なり、嗜好度を考慮した検討が必要であると考えられます。今回の実験結果でも、多くの評価項目において、同じにおいを嗅いでいるにも関わらず、まるでそれぞれ別のおいを嗅いでいるかのように、好き群と嫌い群で評価が分かれる結果となりました。結果を平均値で評価してしまうと中立に近い結果になり、好き群と嫌い群のどちらの評価でもなくなるため、嗜好度を考慮した評価が不可欠であることが改めて分かりました。ポジティブ・ネガティブの意味を持つ形容詞対に対しては、予想通り好き群がポジティブな形容詞、嫌い群はネガティブな形容詞を選択する傾向がみられました。しかし、好き群と嫌い群の回答に差異が見られない形容詞対も見られ、その形容詞対は嗜好度によらず多くの方が同じ印象を受ける印象項目であるか、形容詞の意味がにおいの評価に適しておらず判断が難しい項目だったということになります。香りには嗜好度と密接な関係がある印象と、嗜好度に関係なく同じ印象があることが興味深く、引き続き香りの嗜好度を考慮した適切な評価方法について検討していきたいと考えております。

最後になりましたが、ポスターセッションの会場では数多くの方々からご助言を頂きました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

……著者データとプロフィール……



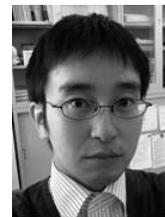
崔ナレ  
(チェ・ナレ)

大阪大学大学院 工学研究科  
地球総合工学専攻  
建築工学部門 特任助教  
565-0871  
大阪府吹田市山田丘2-1  
電話:06-6879-7645  
e-mail:choi@arch.eng.osaka-u.ac.jp



山中俊夫  
(やまなか・としお)

大阪大学大学院 工学研究科  
地球総合工学専攻  
建築工学部門 教授



竹村明久  
(たけむら・あきひさ)

摂南大学 理工学部  
住環境デザイン学科 准教授



小林知広  
(こばやし・ともひろ)

大阪大学大学院 工学研究科  
地球総合工学専攻  
建築工学部門 准教授



衛藤文  
(えとう・あや)

大阪大学大学院 工学研究科  
地球総合工学専攻  
博士前期課程2年